

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

令和元年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和2年3月31日(火)発行 第 49 号 発行責任者:高橋 弘悦

退任にあたって 転退職のご挨拶

令和元年度末人事異動で、本校から5名の教職員が転退職いたします。皆様には大変お世話になりました。紙上でのご挨拶となりますことご容赦ください。本校で培った力を、新任地でも発揮してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻お願いいたします。

退任のごあいさつ

校長 高橋 弘悦
(定年退職)

先日の修了式の折、生徒の皆さんから心のこもった退職へのメッセージ集と花束を頂戴しました。「何もしてあげられなかったなあ」という思いがありましたので、うれしさとともに、恐縮もしています。登校時間が限られている中、忙しい思いをさせ、申し訳なく思いました。帰宅後、メッセージをじっくり読み、これまでの自分を振り返りました。本当にありがとうございました。



会津柳津学園中学校の校長として2年、統合前の西山中学校の校長として5年、計7年にわたり、柳津町にはお世話になりました。図らずも、閉校と開校の両方に携わらせていただく幸運に恵まれました。

地域に支えられ、地域のシンボルとして大きな役割を担ってきた両中学校。会津柳津学園中学校では、その精神を引き継ぎ、地域の学校に対する熱い思いと豊かな自然、生徒たちの純な心と限りない可能性を生かし、生徒には、自らを発揮する力強さと、地域に対する思いを育てるのが、私に与えられた役割と考えて過ごしてきたつもりです。

保護者の皆様には、日頃の見守りに加え、さまざまな行事でご支援をお願いしました。郷土理解学習や職場体験学習、柳津町のPR活動に取り組んだ修学旅行、町中での駅伝大会それに続く野外活動、ボランティア活動など、他校以上にご協力をお願いし、ご迷惑をおかけしたと思っています。

思い出深いのは、町ご当局のご協力をいただいて、ビリギャルの小林さやかさん、バレーボール日本代表の大林素子さん等の世界を極めた様々な方々のご講演をいただけたこと。念願だった、応援歌も、その大林素子さんのご協力で制定できました。

会津柳津学園中学校は、新年度には、生徒全員が同じ制服で、同じジャージ、オリジナルの校歌、応援歌でスタートできます。会津柳津学園中学校の真の意味でのスタートです。

会津柳津学園中学校を最後に退職となります。37年間の教員生活でした。遠く、遙かな道のりだったはずなのに、振り返れば思いがけず短い。人生とは不思議なものだと、今つくづく思います。

何かしら仕事は続けると思います。新しい場所で新たな自分を作る機会かなと思っています。何ができるか不安ではありますが。一方で新たな学びや活動が始まるのだろうと、ワクワクしている自分もいます。今後も自分を成長させるために学び続けようと思っています。

私は、この仕事が好きでした。生徒の皆さんがいたから、私も笑えました、泣けました。生徒の皆さん、太陽のような笑顔をありがとう。これからの会津柳津学園中学校を、いつでもずっと見守り、信じて応援します。

前向きな会津柳津学園中学校で過ごした2年間、そして柳津町での7年間は、私にとって至福の時となりました。とても素敵な学校生活(校長生活?)を送ることができました。

生徒の皆さん、地域の皆様、保護者の皆様、そして情熱と愛情のある本校職員の皆様に心より感謝申し上げます。退任のあいさつといたします。本当にありがとうございました。

「ありがとうございました。」

横山 謙治

(会津若松市立第四中学校へ)

5年前の春は、校庭に雪が積もっていました。入学式に合わせてなのか、雪を消そうと校庭の中を、除雪機が行ったり来たりしていたのを3階から眺めていました。



雪のない校庭を眺めながら、この5年を思い返すと、楽しいこと、苦しいこと、つらいことなど、色々なことが思い出されます。中でも、昨年度の卒業式をインフルエンザで欠席してしまったことが、大いに悔やまれます。卒業生が在籍していたのに……。今年の七夕の願いは、「卒業式に出席する。」でした。念願がかないませんでした。楽しかったことは、たくさんの生徒と話げできたことです。特に1, 2年生とは、ほとんど接点がないにもかかわらず話げできました。また、よつば学級に気軽に来てもらえたことも、とてもうれしことでした。

多くの思い出がある柳学中を去ることは寂しい限りですが、これでお別れです。

最後に、生徒・保護者の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。また会える日を楽しみにしています。

「stand by me, 生徒諸君」

山田 憲男

(西郷村立西郷第一中学校へ)

人間はちっぽけで弱い存在です。新型コロナウイルスで日常の生活が一変してしまいました。当たり前前が当たり前前できなくなってしまうのです。無力ですね。一人で生活していれば不安は加速度的にどん



どん大きくなっていく。隔離でもされたら気が変になりそう!! 本当の自分はこんな人間です。今回の新型コロナウイルスの件で改めて自分の弱さを認識しました。家庭訪問で晃太郎君の顔を見たら力が湧いてきました。私は晃太郎君をはじめ多くの生徒諸君によって支えられていることを身をもって体験できました。「stand

by me」には「私を支えてくれ」という意味もあります。のび太の「ドラえもん、助けて!」という感じです。そして、「私がのび太」で晃太郎君をはじめとする「生徒諸君がドラえもん」の関係であると感じました。今後は支えられている自分を自覚しながら支える立場で残り3年の教員生活を送りたいと思います。

stand by me, stand by you 支えられて、支える

このような気持ちにさせてくれた柳学に感謝です。ありがとうございました。さようなら。

「新たな一歩」

田中 正典

(福島市立平野中学校へ)

会津柳学学園中学校で勤務した2年間、とても充実した毎日を送らせていただきました。

昨年度、会津柳学学園中学校の開校という大きな節目に立ち合えたことは、私の教員人生でも最も思い出に残るものの一つです。また、今年度は、教務主任という大役を仰せつかり、生徒や保護者の皆様とはこれまでとは違った関わり方となりましたが、大変貴重な経験となりました。また、ソフトテニス部でも、支部大会男女団体アベック優勝をはじめとして、多くの大会で上位入賞や県大会出場を経験することもできました。このような素晴らしい経験ができたのも、生徒の皆さんの頑張りのおかげからと、大変感謝しております。

来年度からは、地元に戻り、新たな一歩を踏み出すことになりました。新天地では、新たな環境や立場で頑張っている皆さんに思いをはせながら、皆さんに負けないう自分を高めていきたいと思ひます。

本当にありがとうございました。さようなら。



「科学技術立国」

桜井 成幸

(国見町立県北中学校へ)

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、1974年に「技術および労働の世界への手ほどきは、これがなければ、普通教育が不完全になるような普通教育の本質的な構成要素になるべきである」という「技術・職業教育に関する改正勧告」を出したのですが、日本の技術・家庭科の学習時間は年々減少していることは、誠に遺憾ながら疑いようのない事実です。

私が子供のころ、日本は「科学技術立国」として世界を相手に無双の戦いをしていたのですが…と、嘆いてみても仕方なし。

とまれ、私なりに微力を尽くして、生徒の皆さんに「技術および労働の世界への手ほどき」を頑張ったのですが、少しでも届いてくれていれば幸いです。

身の回りには「技術」があふれています。ちょっとだけ身の周りの解像度を上げてみましょう。いろいろなものが観えてきます。そこから興味を持って、学びへ、そして学問へと繋げていく若人がいてくれたら、技術科の教員として、これに勝る喜びはありません。

